

# ACSA PRESSES

http://www.acsa.jp

## 第8号

2017.2  
通巻 Vol.80



公益社団法人  
全国保育サービス協会  
〒160-0017 東京都新宿区左門町6-17 YSKビル7F  
TEL:03-5363-7455 FAX:03-5363-7456

居宅訪問型保育サービスを基幹とした保育サービスを通じて、すべての子どもと子育て家庭の良質な生育環境を確保することのできる社会の実現に寄与します。  
発行人/網野武博 編集/広報啓発委員会 発行年月日/2017年(平成29年)2月

### 知事 対談

## 三重県知事 鈴木英敬氏に聞く

# 「幸福実感日本一」をめざし、「新しい豊かさ」を享受できる三重へ

伊勢志摩サミット開催のレガシー(遺産)を三重の未来に生かすため、さまざまな取り組みを展開している三重県。現在最年少知事であり、子育て真っ最中の鈴木英敬 三重県知事を、当協会会長、網野武博が訪問いたしました。



すずき えいけい  
鈴木 英敬氏  
三重県知事

1974年 兵庫県生まれ。東京大学経済学部卒業後、経済産業省勤務を経て、2011年4月に三重県知事に当選(全国最年少知事)。現在2期目。内閣府少子化危機突破タスクフォース構成員などを歴任。2015年10月に「イクメン オブ ザ イヤー 2015」、2016年6月に「ベスト・ファーザー イエローリボン賞」を受賞。

ポジティブキャンペーンの動画などを通じて、パートナーに感謝をし、結婚していることの良さや伝えることで、ポジティブなイメージづくりにつながっています。

### 同じ温度で質の議論を

会長：平成27年4月から施行されました子ども・子育て支援法を初めとする新しい仕組みの中で、居宅訪問型保育が制度に組み込まれました。集団での保育の良さは十分理解されていますが、個別にきめ細かい保育を提供できる制度としての可能性が期待されています。この事業について、お考えがありましたらお聞かせください。

知事：少子化危機突破タスクフォースの委員をしていただく、居宅訪問型保育の重要性は議論されています。現在三重県では、居宅訪問型保育は実施されておりませんが、女性の有業率が高まっていくと一定のニーズはあると認識しています。常日頃の計画的な保育もさることながら、緊急的な対応を含めて居宅訪問型保育が必要とされる部分も出てくると思います。情報提供をしっかりとやっていきたいと思っています。

会長：わたくしどもACSAの会員事業者は本場にフレキシブルに対応できる特徴を持っています。さらにACSAは質を確保した保育サービス

の提供を目的に研修を中心にかなり活動しています。知事：世の中の議論を見ると、やはり保育の量の話ばかりで、質の話にならないことが残念です。あらゆる保育サービスの質が高まるよう、量的議論と同じくらいの温度で質の議論をしていきたいですね。

### 育児休暇をして感じる

会長：私の研究フィールドでも男性が育児に専心すればするほど、これまで女性の問題だと思われていたような育児不安であるとか、孤独感を感じるようになるようです。やはりそれだけ大変な部分であり、誰かのサポートを必要とするのだと思います。このあたり知事自身経験されているようなことが一番大切だとお考えですか。

知事：子育てって絶対正解はないので正解を求め過ぎないことが大切だと思います。正解を求めすぎるとやはり不安とか孤立、ストレスといったものが出てきます。あとは僕が子どもと比べて家族や子育てで家庭が有する資源である親や地域、そういったものが乏しくなっている中で、女性だけでなく男性も参画して一緒に家庭を作らなければいけないと感じました。そんな大変さがたいていこのうちの妻が「第二ママはいらない」と言ってくれました。料理をうまくつくるとか、洗濯をきれいにするとか、掃除をうまくやるとか、それもいいけど男性として育児に参画できる得意な部分をどう生かしてやっていく必要があると思います。

会長：お話しを伺っていて全国共通、ひよっとすると世界共通かもしれないんですが、子育てにおいて本当に必要とされる男性の役割は、女性からすると親らしくないことが多いのかもしれないですね。

知事：大人の都合や夫婦同士の育児や家事の分担もいろいろありますが、子どもはどう育てたいのか、そのために親は何をすべきなのかということ、家族で共有して参画する方が男性本人もやり易いと思うんですね。

### 子どもたちへのメッセージ

会長：ところで知事は「パパ」はどうしてパパなの?という絵本を出版されていますが、これには何か理由が理由があるのでしょうか。知事：執筆には2つ理由があります。自分が子どもに伝えたい大切なことを絵本にすることで伝えることができること。あと一つはママへの恩返しです。

育児に参画して思うのは、日々の対応に追われて親が自分の大切だと思うことを子どもに伝えたりすることってなかなか難しいことだと思います。そんなとき絵本を読むのは僕らの役目だったので、絵本を読みながら大切な

と思うことを伝えることができれば一石二鳥だと思いました。そして絵本を読んでいる間お母さんは休むことができます。紅茶を飲んだり、美容院にも行ってほしい。子どもにとってお母さんは絶対なんですよ。お母さんが元気で、心身ともに健康であるのは子どもの願いでもあるので。

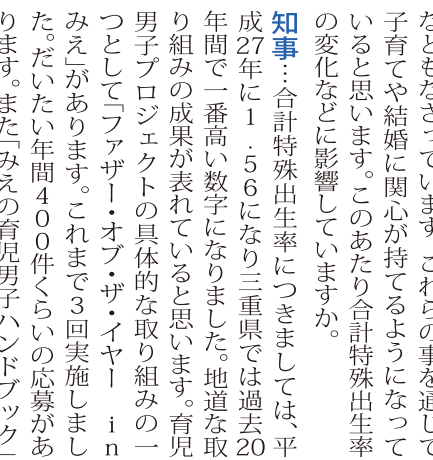
会長：本当にありがたい大事なお話しをいただきました。最後に子育て家庭へのメッセージや、今後の課題についてお聞かせください。

知事：子どもたちにも言いたいのですが、やはり人生に正解はないので、正解をさがしてストレスを感じたりせずにのびのびと生きてほしいと思います。あと課題というか、いま力をいれていることで里親委託とか特別養子縁組についてです。子どもの家庭養育推進官民協議会の会長をしているのですが、家族や家庭を大事に思うからこそ、血がながっていきたくなくても家庭的な養育環境に子どもたちをおいてあげられるよう、色々な方策を考えなければならぬと思っています。里親でも養子縁組でも時間をかけていい家族になっっている方々がたくさんいらつしやいます。家族の多様性を寛容に受けとめる社会になっていくよう活動していきたいと思っています。

会長：ありがとうございます。これから政策の中でどんどんメッセージを発信していただくことを期待しております。



男性の力を活用する三重の家庭支援 網野会長(以下、会長)：まずは、子育て家庭に関わることを中心に三重県の現状と取り組みをお聞かせください。



鈴木知事(以下、知事)：平成28年4月1日現在、1001名の待機児童がいます。29の市に集中しています。保育所の定員や面積などによるものではなく、保育士確保の厳しさが要因となっています。三重県では平成27年度から保育士の修学資金の貸付制度を始めました。また、潜在保育士の意向調査、マッチング、復職支援なども行っています。さらに保育士養成施設の開設など保育士の確保に努めています。

また特徴的な取り組みとして、男性の育児参画に力を入れていきます。男性の育児休業取得率は、全国で2.3%ですが、三重県全体では6.3%、三重県庁は16% (いずれも平成26年度) といった状況です。あわせて女性の有業率を高める働きかけを行っています。男性の育児参画を進めて、女性の活躍できる環境を作り、その両立を支援することが必要だと考えるからです。これは少子化対策の話になりますが、これま

で実施は、女性の両立支援をしようとか、女性が働けるように保育士を支援しようという女性に頑張ってもらおうパターンの子子化対策ばかりでした。男性や企業も変わらなければ結婚して子どもをもうける、といったことにはつながらないと考えています。男性が家族形成の当事者になっていかなければならないというのが三重県の施策の特徴だと思っています。

Interviewer  
あみの たけひろ  
網野 武博  
公益社団法人  
全国保育サービス協会 会長  
1942年 北海道生まれ。東京大学教育学部教育心理学専攻卒業。現在、東京家政大学特任教授。  
専門および研究テーマは児童福祉・家族福祉および福祉心理学。  
保育をはじめとする子どもの発達と福祉に関する様々な分野において、児童福祉・家族福祉の視点から活発な活動を行っている。  
『児童福祉学』(中央法規出版) 単著 『保育サービス』(保育社) 共著など多数。

